

薬王寺

やくおうじ

徳川家ゆかりの寺

さまざまに物語を秘め
伝えられた仏尊群像

馬頭観音菩薩坐像

木造、像高88センチ、室町前期。本堂内の右奥に安置。江戸時代に寄進された客仏。六観音のなかで唯一、忿怒相をとる馬頭観音の像は鎌倉ではめずらしい。



聖観音菩薩立像

木造、像高97センチ、伝白鳳時代。古様の像ではあるが、客仏のため伝来は不詳。造立年代は特定しがたいとされ、後世につくられた模古作の可能性もある。



脇壇に印象的な2観音像を配し、中尊に一塔両尊と日蓮聖人像を安置する本堂。祖師像は裸形着装の坐像(像高93センチ)で、乳首があり、口を開けているめずらしい像容。

仏像にも運命というものがある。

この寺は、日蓮宗という宗派の枠を超えた特異な仏像を多く伝えている。寄進されたと思しき伝来不明の客仏や、謎めいた容貌の像、なかには不思議な由緒をもつ仏像もある。

きわめつけは下の釈迦如来像だろう。閻浮檀金とは、経典にいう伝説上の大森林を流れる川に産した美しい砂金のこと。下関沖の海底から網にかかつて出現したといひ、中国唐代の記銘が残るミステリアスな像である。「いわれはともかく、数百年以上のあいだ、その仏をお参りする人や護

つてきた人がいて、今ここにある。この事実に思いをいたし、手を合わせてほしい」住職がそう語る思いこそ、貴重な仏像が伝わる由縁なのだろう。

写真 布川航太

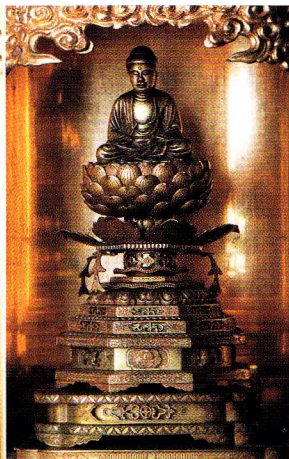


薬王寺境内。明治初頭の廃仏毀釈ののち寺運は衰退したが、大正・昭和期の住職の努力で現在の山容にまで復興。



熱田大明神立像

像高25.6センチ、江戸時代。寺域から出土した陶製の観音像(中国明代ごろの作)の頭部に木製の胴体部を調製し、熱田大明神として祀ったもの。



閻浮檀金釈迦如来像

金銅造、17.5センチ、背面に唐代貞観十九年(645)と記銘。この像を護持してきた周防国の領主が、薬王寺を中興した日蓮上人に寄進した像。

薬王寺(日蓮宗)

鎌倉市扇ヶ谷3-5-1 ☎0467-22-3749 ●JR鎌倉駅西口より徒歩15分◎拝観情報=入堂拝観は事前に予約すること。拝観料は志納。